

平成28年度

健全化判断比率審査意見書

資金不足比率審査意見書

平成29年9月

奈良県監査委員

監 第 65 号
平成29年9月1日

奈良県知事 荒 井 正 吾 様

奈良県監査委員 江 南 政 治

同 齋 藤 信 一 郎

同 粒 谷 友 示

同 田 中 惟 允

平成 28 年度決算に基づく健全化判断比率及び
資金不足比率の審査について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成 19 年法律第 94 号）第3条第1項及び第 22 条第 1 項の規定により、平成 29 年 7 月 24 日付け財第 75 号をもって審査に付された平成 28 年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類について審査した結果、別紙のとおり意見書を提出します。

平成 28 年度決算に基づく健全化判断比率審査意見書

第 1 審査の対象

知事から提出された平成 28 年度決算に基づく実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率（以下、これらを「健全化判断比率」という。）並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類を対象に審査を実施した。

第 2 審査の方法

この健全化判断比率審査は、

- ① 提出された健全化判断比率が、法令等に照らし、算出過程に誤りはないか
 - ② その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているか
- を主眼として、決算諸表その他の帳簿及び証拠書類との照合等を行うとともに、地方公社の現地調査、関係部局から説明を聴取するなどの方法により審査を実施した。

第 3 審査の結果

審査に付された次の健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されていると認められる。

健全化判断比率は次のとおりである。

- 1 実質赤字比率は、実質収支が黒字であり、算定されない。
- 2 連結実質赤字比率は、連結実質収支が黒字であり、算定されない。
- 3 実質公債費比率は、11.3%となっており、地方公共団体の財政の健全化に関する法律施行令第7条に定める数値（以下「早期健全化基準」という。）の25%を下回っている。
- 4 将来負担比率は、160.6%となっており、早期健全化基準の400%を下回っている。

比 率 名	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	早期健全化基準
実 質 赤 字 比 率	—	—	—	3.75 %
連 結 実 質 赤 字 比 率	—	—	—	8.75 %
実 質 公 債 費 比 率	11.3 %	11.7 %	12.0 %	25 %
将 来 負 担 比 率	160.6 %	159.8 %	171.0 %	400 %

平成 28 年度決算に基づく資金不足比率審査意見書

第 1 審査の対象

知事から提出された平成 28 年度公営企業会計の決算に基づく資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類を対象に審査を実施した。

第 2 審査の方法

この資金不足比率審査は、

- ① 提出された資金不足比率が、法令等に照らし、算出過程に誤りはないか
- ② その算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかを主眼として、決算諸表その他の帳簿及び証拠書類との照合等を行うとともに、関係部局から説明を聴取するなどの方法により審査を実施した。

第 3 審査の結果

審査に付された次の資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されていると認められる。

奈良県水道用水供給事業費特別会計、奈良県流域下水道事業費特別会計及び奈良県中央卸売市場事業費特別会計において、資金不足額はなく、資金不足比率は算定されない。

比率名	会 計 名	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	経営健全化基準
資 金 不 足 比 率	奈良県水道用水供給事業費特別会計	—	—	—	20 %
	奈良県流域下水道事業費特別会計	—	—	—	
	奈良県中央卸売市場事業費特別会計	—	—	—	

付 表

1	実質赤字比率	・・・	3
2	連結実質赤字比率	・・・	4
3	実質公債費比率	・・・	5
4	将来負担比率	・・・	6
5	資金不足比率	・・・	7

[参考]

・	健全化判断比率等の対象範囲	・・・	8
・	早期健全化基準等について	・・・	9

1 実質赤字比率

一般会計等を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率

福祉、教育、まちづくり等を行う地方公共団体の一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示す指標

【計算式】

$$\begin{aligned} \text{実質赤字比率} &= \frac{\text{一般会計等に係る実質赤字額 (A)}}{\text{標準財政規模 (B)}} \\ &= \frac{\Delta 1,962,636}{321,627,164} = \text{実質赤字額が発生していないため、算定されない} \end{aligned}$$

◎ 一般会計等に係る実質収支額 (A)

[単位：千円]

会計名	歳入総額 (1)	歳出総額 (2)	計 (3)+(4)+(5)- (6)	翌年度に繰り越すべき財源				実質収支額 (1)-(2)-(3)- (4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収 入特定財源 (6)	
一般会計	485,080,461	480,060,824	3,215,579	21,687,524	204,863	0	18,676,808	1,804,058
一般会計等に 属する特別 会計	公立大学法人奈良県立医科大学関係 経費特別会計	11,093,029	11,093,029	0	0	0	0	0
	母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計	179,722	105,649	74,073	0	0	74,073	0
	農業改良資金貸付金特別会計	113,698	49,517	64,181	0	0	64,181	0
	中小企業振興資金貸付金特別会計	2,179,960	1,102,960	1,077,000	0	0	1,077,000	0
	証紙収入特別会計	3,505,975	3,347,397	0	0	0	0	158,578
	林業改善資金貸付金特別会計	290,558	97,423	193,135	0	0	193,135	0
	公債管理特別会計	158,539,374	158,539,374	0	0	0	0	0
	育成奨学資金貸付金特別会計	947,552	133,044	814,508	0	0	814,508	0
	地方独立行政法人奈良県立病院機構 関係経費特別会計	15,094,839	15,094,839	0	0	0	0	0
	病院事業清算費特別会計	1,005,088	1,005,088	0	0	0	0	0
合計	678,030,256	670,629,144	5,438,476	21,687,524	204,863	2,222,897	18,676,808	1,962,636

◎ 標準財政規模 (B)

[単位：千円]

金額	321,627,164
----	-------------

※ 地方公共団体の標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示すもので、標準税収入額等に普通交付税を加算した額をいいます。
なお、地方財政法施行令附則第10条第2項の規定により、臨時財政対策債（地方一般財源の不足に対処するため、投資的経費以外の経費にも充てられる地方財政法第5条の特例として発行される地方債）の発行可能額についても含まれています。

2 連結実質赤字比率

全会計を対象とした実質赤字（又は資金の不足額）の標準財政規模に対する比率

全ての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体全体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体全体としての財政運営の悪化の度合いを示す指標

【計算式】	
連結実質赤字比率	$= \frac{\text{連結実質赤字額 (A)+(B)+(C)+(D)}}{\text{標準財政規模 (E)}}$
	$= \frac{\Delta 20,562,154}{321,627,164} = \text{連結実質赤字額が発生していないため、算定されない}$

◎ 一般会計等に係る実質収支額 (A)

[単位：千円]

会計名	歳入総額 (1)	歳出総額 (2)	計 (3)+(4)+(5) -(6)	翌年度に繰り越すべき財源				実質収支額 (1)-(2)-(3)- (4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収 入特定財源 (6)	
一般会計	485,080,461	480,060,824	3,215,579	21,687,524	204,863	0	18,676,808	1,804,058
一般会計等に 属する 特別会計	公立大学法人奈良県立医科大学関係 経費特別会計	11,093,029	11,093,029	0	0	0	0	0
	母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計	179,722	105,649	74,073	0	0	74,073	0
	農業改良資金貸付金特別会計	113,698	49,517	64,181	0	0	64,181	0
	中小企業振興資金貸付金特別会計	2,179,960	1,102,960	1,077,000	0	0	1,077,000	0
	証紙収入特別会計	3,505,975	3,347,397	0	0	0	0	158,578
	林業改善資金貸付金特別会計	290,558	97,423	193,135	0	0	193,135	0
	公債管理特別会計	158,539,374	158,539,374	0	0	0	0	0
	育成奨学資金貸付金特別会計	947,552	133,044	814,508	0	0	814,508	0
	地方独立行政法人奈良県立病院機構 関係経費特別会計	15,094,839	15,094,839	0	0	0	0	0
	病院事業清算費特別会計	1,005,088	1,005,088	0	0	0	0	0
合計	678,030,256	670,629,144	5,438,476	21,687,524	204,863	2,222,897	18,676,808	1,962,636

◎ 一般会計等以外の特別会計のうち公営企業に係る特別会計以外の特別会計に係る実質収支額 (B)

[単位：千円]

会計名	歳入総額 (1)	歳出総額 (2)	計 (3)+(4)+(5) -(6)	翌年度に繰り越すべき財源				実質収支額 (1)-(2)-(3)- (4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収 入特定財源 (6)	
県営競輪事業費特別会計	13,683,638	13,563,562	0	0	0	0	0	120,076
自動車駐車場費特別会計	286,108	276,374	0	0	0	0	0	9,734
合計	13,969,746	13,839,936	0	0	0	0	0	129,810

◎ 公営企業会計（法適用企業）に係る資金収支額 (C)

[単位：千円]

会計名	流動資産 (1)	貸倒引当金 (2)	流動負債 (3)	控除企業債等 (4)	控除引当金等 (5)	資金収支額 (1)+(2)-(3)+(4)+(5)
水道用水供給事業費特別会計	18,920,398	0	5,184,612	3,091,069	131,534	16,958,389
合計	18,920,398	0	5,184,612	3,091,069	131,534	16,958,389

◎ 公営企業会計（法非適用企業）に係る資金収支額 (D)

[単位：千円]

会計名	歳入額 (1)	歳出額 (2)	計 (3)+(4)+(5) -(6)	翌年度に繰り越すべき財源				資金収支額 (1)-(2)-(3)- (4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収 入特定財源 (6)	
流域下水道事業費特別会計	11,813,149	10,268,949	67,500	954,795	0	0	887,295	1,476,700
中央卸売市場事業費特別会計	626,579	591,960	0	0	0	0	0	34,619
合計	12,439,728	10,860,909	67,500	954,795	0	0	887,295	1,511,319

◎ 標準財政規模 (E)

[単位：千円]

金額	321,627,164
----	-------------

3 実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金等の標準財政規模※に対する比率

借入金(地方債)の返済額及びこれに準ずるものの額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示す指標(3ヶ年平均)

※ 標準財政規模から元利償還金等に係る基準財政需要額算入額を控除した額

【計算式】

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(\text{地方債の元利償還金(A)} + \text{準元利償還金(B)}) - (\text{特定財源(C)} + \text{元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額(D)})}{\text{標準財政規模(E)} - (\text{元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額(D)})}$$

(右の値の3ヶ年平均)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
3ヶ年平均	($\frac{30,213,486}{263,420,595}$)	+ $\frac{30,274,981}{271,417,046}$	+ $\frac{30,487,558}{269,344,258}$) ÷ 3
	(11.46967)	+ 11.15441	+ 11.31918) ÷ 3
=	11.3		

[単位：千円]

区 分	平成28年度	平成27年度	平成26年度
地方債の元利償還金(繰上償還額等を除く) (A)	76,695,036	76,522,308	76,197,342
準元利償還金 (B)	7,095,976	6,732,679	5,483,508
満期一括償還地方債の元金償還相当額等	6,764,285	6,179,488	4,749,474
公営企業債の償還に充てたと認められる繰出金	82,575	262,998	337,559
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	9,211	3,039	383
公債費に準ずる債務負担行為に基づく支出	239,905	287,154	396,092
一時借入金の利子	0	0	0
特定財源(公営住宅等使用料等) (C)	1,020,548	1,273,970	1,445,059
元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額 (D)	52,282,906	51,706,036	50,022,305
標準財政規模 (E)	321,627,164	323,123,082	313,442,900

4 将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模※に対する比率

地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標

※ 標準財政規模から元利償還金等に係る基準財政需要額算入額を控除した額

【計算式】	将来負担額(A)－ (充当可能基金額＋特定財源見込額＋地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額)(B)
	標準財政規模(C)－ (元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額(D))

将来負担比率	$= \frac{432,775,226}{269,344,258} = 160.6\%$

◎ 将来負担額 (A)

[単位：千円]

区 分	会計名等	金 額
地方債の現在高	一般会計	1,061,647,123
	公立大学法人奈良県立医科大学関係経費特別会計	36,059,341
	母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計	584,745
	農業改良資金貸付金特別会計	119,398
	中小企業振興資金貸付金特別会計	1,425,391
	地方独立行政法人奈良県立病院機構関係経費特別会計	18,971,948
	病院事業清算費特別会計	667,828
	計	1,119,475,774
	債務負担行為に基づく支出予定額	一般会計
公営企業債等繰入見込額	水道用水供給事業費特別会計	0
	流域下水道事業費特別会計	681,094
	中央卸売市場事業費特別会計	104,867
	計	785,961
組合負担等見込額	南和広域医療組合	2,563,820
	関西広域連合	696
	計	2,564,516
退職手当負担見込額	一般会計	112,102,525
設立法人の負債等額負担見込額	道路公社	0
	土地開発公社	0
	公立大学法人奈良県立医科大学	2,030,115
	地方独立行政法人奈良県立病院機構	7,833,235
	公立大学法人奈良県立大学	0
	(公財)奈良県地域産業振興センター	0
	(公財)なら担い手・農地サポートセンター	2,017
	計	9,865,367
合 計		1,249,506,246

◎ 充当可能財源等 (B)

[単位：千円]

区 分	金 額
地方債の償還額等に充当可能な基金	160,733,795
地方債の償還額等に充当可能な特定の歳入見込額	12,053,561
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	643,943,664
合 計	816,731,020

◎ 標準財政規模 (C)

[単位：千円]

金 額	金 額
	321,627,164

◎ 元利償還金と準元利償還金に係る基準財政需要額算入額 (D)

[単位：千円]

金 額	金 額
	52,282,906

5 資金不足比率

公営企業ごとの資金不足額の事業規模に対する比率

公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示す指標

【計算式】	
資金不足比率	$= \frac{\text{資金の不足額(A)}}{\text{事業の規模(B)}}$

公営企業ごとの資金不足比率	
○ 水道用水供給事業	
$\frac{\Delta 16,958,389}{9,544,035}$	= 資金不足額が発生していないため、算定されない
○ 流域下水道事業	
$\frac{\Delta 1,476,700}{6,904,714}$	= 資金不足額が発生していないため、算定されない
○ 中央卸売市場事業	
$\frac{\Delta 34,619}{552,659}$	= 資金不足額が発生していないため、算定されない

◎ 資金の不足額 (A)

[単位：千円]

法適用企業会計名	流動資産 (1)	貸倒引当金 (2)	流動負債 (3)	控除企業債等 (4)	控除引当金等 (5)	資金収支額 (1)+(2)-(3)+(4)+(5)
水道用水供給事業費特別会計	18,920,398	0	5,184,612	3,091,069	131,534	16,958,389

[単位：千円]

法非適用企業会計名	歳入額 (1)	歳出額 (2)	計 (3)+(4)+(5) -(6)	翌年度に繰り越すべき財源				資金収支額 (1)-(2)-(3)- (4)-(5)+(6)
				繰越明許費 繰越額 (3)	事故繰越額 (4)	事業繰越額 (5)	左記に係る未収入 特定財源 (6)	
流域下水道事業費特別会計	11,813,149	10,268,949	67,500	954,795	0	0	887,295	1,476,700
中央卸売市場事業費特別会計	626,579	591,960	0	0	0	0	0	34,619

◎ 事業の規模 (B)

[単位：千円]

会計名	営業収益等 (1)	受託工事収益 (2)	事業の規模 (1)-(2)
水道用水供給事業費特別会計	9,554,935	10,900	9,544,035
流域下水道事業費特別会計	6,904,714	0	6,904,714
中央卸売市場事業費特別会計	552,659	0	552,659

奈良県の健全化判断比率等対象範囲（H28年度決算）

地方公共団体	一般会計等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一般会計 ○ 特別会計(公営事業会計を除く) <ul style="list-style-type: none"> ・ 公立大学法人奈良県立医科大学関係経費特別会計 ・ 奈良県母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計 ・ 奈良県農業改良資金貸付金特別会計 ・ 奈良県中小企業振興資金貸付金特別会計 ・ 奈良県証紙収入特別会計 ・ 奈良県林業改善資金貸付金特別会計 ・ 奈良県公債管理特別会計 ・ 奈良県育成奨学金貸付金特別会計 ・ 地方独立行政法人奈良県立病院機構関係経費特別会計 ・ 奈良県病院事業清算費特別会計 	
	公営事業会計	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方財政法上の公営企業以外の事業かつ地方公営企業法の非適用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県営競輪事業費特別会計 ・ 奈良県自動車駐車場費特別会計 	
	公営企業会計	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方財政法上の公営企業かつ地方公営企業法の非適用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県流域下水道事業費特別会計 ・ 奈良県中央卸売市場事業費特別会計 ○ 地方公営企業法の当然適用事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県水道用水供給事業費特別会計 	
	一部事務組合等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一部事務組合・広域連合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 南和広域医療組合 ・ 関西広域連合 	
	地方公社・第3セクター等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土地開発公社 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県土地開発公社 ○ 地方道路公社 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県道路公社 ○ 地方独立行政法人 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公立大学法人奈良県立医科大学 ・ 地方独立行政法人奈良県立病院機構 ・ 公立大学法人奈良県立大学 ○ 第三セクター(債務を負担している場合) <ul style="list-style-type: none"> ・ (公財)奈良県地域産業振興センター ・ (公財)なら担い手・農地サポートセンター 	

資金不足比率
 公営企業ごとに算定

早期健全化基準等について

(「地方公共団体の財政の健全化に関する法律及び同法施行令」による)

■ 早期健全化基準等（都道府県）

	早期健全化基準	財政再生基準
① 実質赤字比率	3.75%	5%
② 連結実質赤字比率	8.75%	15%
③ 実質公債費比率	25%	35%
④ 将来負担比率	400%	—

	経営健全化基準
○ 資金不足比率	20%

◎ 早期健全化基準とは

地方公共団体が、財政収支が不均衡な状況その他の財政状況が悪化した状況において、自主的かつ計画的にその財政の健全化を図るべき基準です。

地方公共団体は、健全化判断比率のいずれかが早期健全化基準以上である場合には、「財政健全化計画」を議会の議決を経て定め、速やかに公表し、総務大臣へ報告しなければならず、さらに毎年度、その実施状況を議会へ報告し、公表しなければなりません。

実施状況を踏まえ、総務大臣は必要な勧告をすることができます。

◎ 財政再生基準とは

地方公共団体が、財政収支の著しい不均衡その他の財政状況の著しい悪化により自主的な財政の健全化を図ることが困難な状況において、計画的にその財政の健全化を図るべき基準です。

地方公共団体は、健全化判断比率のうちの将来負担比率を除いた3つの指標のいずれかが財政再生基準以上である場合には、「財政再生計画」を議会の議決を経て定め、速やかに公表しなければなりません。なお「財政再生計画」に総務大臣の同意を得ている場合でなければ、原則として地方債の起債ができません。また計画に適合しない財政運営であると認められる場合等において、総務大臣は予算の変更等必要な措置を勧告することができます。

◎ 経営健全化基準とは

地方公共団体が、自主的かつ計画的に公営企業の経営の健全化を図るべき基準です。

資金不足比率が経営健全化基準以上となった場合には、「経営健全化計画」を議会の議決を経て定め、速やかに公表し、総務大臣へ報告しなければならず、さらに毎年度、その実施状況を議会へ報告し、公表しなければなりません。

実施状況を踏まえ、総務大臣は必要な勧告をすることができます。